

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-296523

(P2005-296523A)

(43) 公開日 平成17年10月27日(2005. 10. 27)

(51) Int.Cl.⁷

A 4 4 C 25/00

F I

A 4 4 C 25/00

B

テーマコード (参考)

3 B 1 1 4

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2004-120798 (P2004-120798)

(22) 出願日 平成16年4月15日 (2004. 4. 15)

(71) 出願人 595056815

六甲真珠貿易株式会社

兵庫県神戸市中央区磯辺通1丁目1番18

号 カサベラ国際プラザビル

(74) 代理人 100075502

弁理士 倉内 義朗

(72) 発明者 福田 士郎

兵庫県神戸市垂水区松風台2丁目5番

ジェームス山ビルズ 5-403

Fターム(参考) 3B114 EB00 FA07 FA09

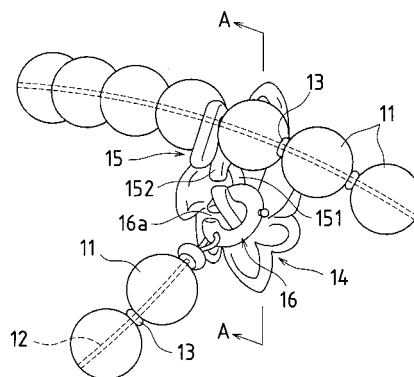
(54) 【発明の名称】 装身具

(57) 【要約】

【課題】 衣装と調和する任意の装飾体を選択して装着できるようにする。

【解決手段】 多数個の真珠11と、真珠を一行に綴る糸12と、糸12に挿通されて隣接する真珠11間に配置された弾性材料からなるスペーサ13と、異なるデザインの複数個の装飾体14と、から構成される。そして、各装飾体14の裏面には、糸12の一端側に設けられた受け留め具16と係脱自在な掛け留め具部151と、スペーサ13と係脱自在なフック部152が形成された止め金具15が設けられる。このため、選択された任意の装飾体14の掛け留め具部151が受け留め具16に係止される一方、その装飾体14のフック部152が任意の真珠11間に挿入されて真珠間のスペーサ13と係合される。

【選択図】 図4



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

それぞれ通孔が形成された多数個の珠玉と、一端側に受け留め具が設けられて各珠玉の通孔に挿通され、珠玉を一列に綴る糸と、少なくとも糸の他端側の所定区間において糸に挿通されて隣接する珠玉間に配置された弾性材料からなるスペーサと、異なるデザインの複数個の装飾体と、から構成され、各装飾体の裏面側には、糸の一端側に設けられた受け留め具と係脱自在な掛け留め具部が設けられるとともに、スペーサと係脱自在なフック部が設けられてなり、選択された任意の装飾体の掛け留め具部が受け留め具に係止される一方、その装飾体のフック部が所定区間における任意の珠玉間に挿入されて珠玉間のスペーサと係合されることを特徴とする装身具。

10

【請求項 2】

珠玉を設けたピアスピンと、ピアスピンに係脱自在なナットと、ピアスピンに挿通可能なリングを有し、請求項 1 記載の複数個の装飾体と同一デザインの複数個の装飾体と、から構成され、選択された任意の装飾体のリングがピアスピンに挿通されることを特徴とする装身具。

【請求項 3】

珠玉を設けた柱と、柱の先端にねじ込まれたスクリュー金具と、柱に固定されるとともに、少なくとも珠玉の表面の一部と接触する係止フックと、係止フックに挿通可能なリングを有し、請求項 1 記載の複数個の装飾体と同一デザインの複数個の装飾体と、から構成され、選択された任意の装飾体のリングが係止フックに挿通されることを特徴とする装身具。

20

【請求項 4】

前記珠玉が真珠であることを特徴とする請求項 1，2，3 記載の装身具。

【請求項 5】

前記掛け留め具部およびフック部が各装飾体の裏面に設けた止め金具にそれぞれ形成されていることを特徴とする請求項 1 記載の装身具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この発明は、真珠、珊瑚、翡翠、ダイヤモンド、エメラルドなどの珠玉を多数個連ねて形成される連タイプのネックレスやブレスレットといった装身具に関するものである。

30

【背景技術】

【0002】

装身具、例えば、真珠のネックレスの長さについて考察すると、約 35 cm のチョーカー、約 40～43 cm のプリンセス、約 53 cm のマチネ、約 71 cm のオペラといった 4 種類がある。これらのうち、長さが一番短いチョーカーが最も首もとに沿い、プリンセス、マチネ、オペラの順に首からの垂れ下がり度合いが大きくなる。このたれ下がりの度合いは、装着者の体格とその日の服装に左右される。そこで、装着者は、自分の体格に相応しく、かつ、装着時に衣装に適した長さのネックレスを選択することになる。

【0003】

しかしながら、真珠のネックレスは、一般に高価であることから、上記の全ての種類の長さのネックレスを揃えておくことは困難である。このため、ネックレスを体格および衣装に合わせて自由に選択できないのが現実である。

40

【0004】

このような問題に対応して、出願人は、装着時のネックレスの輪の大きさを自由に調整することができる装身具を提案している（特許文献 1 参照）。

【特許文献 1】国際公開第 02/35958 号パンフレット

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

50

ところで、前述したネックレスは、装着時の輪の大きさを自由に調整することができることから、体格による印象の変化を防止できるとともに、一つのネックレスをいくつかの形態に使い分けることができる、という特徴を有するものの、装飾体が糸の他端に固定されているため、装飾体のデザインと、衣装とが調和しない場合、採用することができないものである。このため、衣装に合わせて装飾体が異なる複数個のネックレスを用意しなければならない、この点でも、高価なネックレスを揃えておくことは困難である。

【0006】

本発明は、このような問題点に鑑みてなされたもので、衣装と調和する任意の装飾体を選択して装着することのできる装身具を提供するものである。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明は、それぞれ通孔が形成された多数個の珠玉と、一端側に受け留め具が設けられて各珠玉の通孔に挿通され、珠玉を一列に綴る糸と、少なくとも糸の他端側の所定区間において糸に挿通されて隣接する珠玉間に配置された弾性材料からなるスペーサと、異なるデザインの複数個の装飾体と、から構成され、各装飾体の裏面側には、糸の一端側に設けられた受け留め具と係脱自在な掛け留め具部が設けられるとともに、スペーサと係脱自在なフック部が設けられてなり、選択された任意の装飾体の掛け留め具部が受け留め具に係止される一方、その装飾体のフック部が所定区間における任意の珠玉間に挿入されて珠玉間のスペーサと係合されることを特徴とするものである。

【0008】

本発明によれば、衣装に調和する任意の装飾体を複数個の装飾体のなかから選択し、選択された装飾体の掛け留め具部を糸の一端側に設けられた受け留め具に係止して取り付ける。次いで、装飾体のフック部を所定区間における任意の珠玉間に挿入し、珠玉間のスペーサと係合させて装着する。

【0009】

この結果、衣装と調和する任意の装飾体を選択して装着することができる。また、輪の大きさを自由に調整することができる。

【0010】

この場合、選択された装飾体を摘んで、掛け留め具部を受け留め具に係止することにより、装飾体を簡単に取り付けることができるとともに、取り外し操作も容易に行うことができる。また、フック部を任意の珠玉間に嵌め込むことにより、簡単に輪を形成することができる。そして、輪が形成された際、フック部はスペーサと係合することから、珠玉および糸が傷つけられることがなく、耐久性に優れる。また、掛け留め具部およびフック部は装飾体の裏面側に設けられているため、掛け留め具部と受け留め具との係止状態およびフック部とスペーサとの係合状態は、装飾体によって隠蔽され、連結部分が目立たず、外部に感知されにくい。さらに、フック部が弾性材料製のスペーサに係合することから、フック部が不測に外れることがなく、落として紛失するおそれがなく、また、取り外し操作も容易に行うことができる。

【0011】

本発明は、珠玉を設けたピアスピンと、ピアスピンに係脱自在なナットと、ピアスピンに挿通可能なリングを有し、請求項1記載の複数個の装飾体と同一デザインの複数個の装飾体と、から構成され、選択された任意の装飾体のリングがピアスピンに挿通されることを特徴とするものである。

【0012】

本発明によれば、衣装に調和する任意の装飾体を複数個の装飾体のなかから選択し、選択された装飾体のリングをピアスピンに挿通した後、耳に挿通し、ナットにて止着する。

【0013】

この結果、衣装と調和する任意の装飾体を選択して装着することができる。

【0014】

この場合、ネックレスの装飾体と同一デザインの装飾体を選択することにより、ネック

10

20

30

40

50

レスとピアスとを統合して協調することができる。

【0015】

本発明は、珠玉を設けた柱と、柱の先端にねじ込まれたスクリー金具と、柱に固定されるとともに、少なくとも珠玉の表面の一部と接触する係止フックと、係止フックに挿通可能なリングを有し、請求項1記載の複数の装飾体と同一デザインの複数の装飾体と、から構成され、選択された任意の装飾体のリングが係止フックに挿通されることを特徴とするものである。

【0016】

本発明によれば、衣装に調和する任意の装飾体を複数の装飾体のなかから選択し、選択された装飾体のリングを係止フックに挿通した後、耳にスクリー金具にて装着する。

10

【0017】

この結果、衣装と調和する任意の装飾体を選択して装着することができる。

【0018】

この場合、ネックレスの装飾体と同一デザインの装飾体を選択することにより、ネックレスとイヤリングを統合して協調することができる。

【0019】

本発明において、珠玉としては、真珠が好ましい。真珠は養殖技術が確立しているので入手し易く、しかも、万人に好まれる。また、真珠はほぼ真球であるのでフック部の掛け外しもスムーズに行える。

【0020】

本発明において、前記掛け留め具部およびフック部が装飾体の裏面に設けた単一の止め金具にそれぞれ形成されていると、装飾体の裏面の小さなスペースに掛け留め具部およびフック部を設けることができるとともに、コストも低減できる。

20

【発明の効果】

【0021】

発明によれば、衣装と調和する任意の装飾体を選択して装着することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0022】

以下、本発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。

【実施例1】

30

【0023】

図1乃至図5には、本発明の装身具の第1実施形態である真珠のネックレス10が示されている。

【0024】

このネックレス10は、珠玉としての多数個の真珠11と、一端側に受け留め具16が止着された糸12と、複数のスペーサ13と、複数の装飾体14と、各装飾体14の裏面に設けられ、掛け留め具部151およびフック部152が形成された止め金具15と、から構成される。

【0025】

真珠11は、従来のネックレスと同様に、糸12を挿通するための通孔が形成されており、その個数は、ネックレス10の全長および真珠11自体の大きさに基づいて適宜決定される。

40

【0026】

糸12は、単位面積当たりの引っ張り強度が大きく、しなやかな絹から形成されている。ただし、糸12は、多数個の真珠11を一行に綴った際、容易に切断しないような材質であればよく、ナイロンなどの合成繊維や金属繊維など、その他の繊維を用いてもよい。

【0027】

スペーサ13は、装飾体14に設けられた止め金具15のフック部152を受けるものであり、弾性材料、例えば、シリコン樹脂によってリング状に形成されている。この場合、スペーサ13は、糸12から大きく振れないように、内径が糸12の外径よりもわずか

50

に大きい程度に設定されている他、真珠 1 1 に比して目立たないように、外径が設定されている。そして、本実施形態においては、スペーサ 1 3 は、糸 1 2 に真珠 1 1 と交互に挿通されることにより、ネックレス 1 0 の全長にわたって隣接する真珠 1 1, 1 1 間に配置されている。

【0028】

このため、真珠 1 1, 1 1 間に隙間が発生するのが防止され、糸 1 2 が露出せず、見苦しくなることがない。

【0029】

なお、スペーサ 1 3 は、必ずしも全長にわたって配置される必要はなく、少なくとも糸 1 2 の他端側の所定区間において隣接する真珠 1 1, 1 1 間に配置されていればよい。

10

【0030】

ここで、所定区間とは、ネックレス 1 0 の装着時、ネックレス 1 0 に止め金具 1 5 のフック部 1 5 2 を実際に係止し得る範囲をいう。具体的には、ネックレス 1 0 の全長と、一般的な人の首の周長との差に相当する寸法を、糸 1 2 の他端からとった範囲である。

【0031】

装飾体 1 4 は、デザインの異なる複数種類、例えば、花形状（図 1 参照）の他、ハート形状およびクロス形状（図 6 参照）の 3 種類が用意されている。そして、いずれの装飾体 1 4 においても、正面から観察した場合に、後述する止め金具 1 5 の掛け留め具部 1 5 1 による係止状態およびフック部 1 5 2 による係合状態を隠蔽することができる大きさに形成されている（図 1 および図 3 参照）。

20

【0032】

なお、花形状の装飾体 1 4 において、表面側には単体の真珠 1 4 1 が取り付けられている。

【0033】

止め金具 1 5 は、図 7 に詳細に示すように、真珠 1 1, 1 1 間に無理なく挿入し得る厚みを有するとともに、滑らかな表面を有する略方形の薄板によって形成されており、その一辺側端面が装飾体 1 4 の裏面にロー付けされている。これにより、真珠 1 1 が止め金具 1 5 によって傷付けられることが防止される。そして、止め金具 1 5 には、掛け留め具部 1 5 1 およびフック部 1 5 2 が形成されている。

【0034】

30

具体的には、掛け留め具部 1 5 1 は、止め金具 1 5 の約中央部に形成され、糸 1 2 の他端に止着された略円環体形状の受け留め具 1 6（図 2 参照）における円環面の外径よりも若干大きな外径の円形状の受け留め具嵌入部 1 5 1 a と、後述するフック部 1 5 2 の開口端部 1 5 2 b 近傍から受け留め具嵌入部 1 5 1 a にかけて形成され、受け留め具 1 6 における円環面の外径よりも小さな幅のチョーク部 1 5 1 b と、からなり、チョーク部 1 5 1 b の周縁は、チョーク部 1 5 1 b に向けて断面三角形形状に面取りされている。この場合、チョーク部 1 5 1 b の始端は、円形状の受け留め具嵌入部 1 5 1 a の最下部よりも上方に位置している（図 5 参照）。

【0035】

なお、糸 1 2 の一端に止着された受け留め具 1 6 は、止め金具 1 5 の板厚よりも小さな幅の切り開き部 1 6 a（図 2 参照）が途中で形成されており、切り開き部 1 6 a の周縁は、切り開き部 1 6 a に向けて断面三角形形状に面取りされている。

40

【0036】

したがって、止め金具 1 5 に対して受け留め具 1 6 を直交させるとともに、受け留め具 1 6 の切り開き部 1 6 a を止め金具 1 5 における掛け留め具部 1 5 1 のチョーク部 1 5 1 b と対向させ、押し込んだ場合にのみ受け留め具 1 6 に止め金具 1 5（装飾体 1 4）を係止することができる。また、両者を対向させて引き出した場合にのみ止め金具 1 5 を受け留め具 1 6 から離脱させることができる。

【0037】

一方、フック部 1 5 2 は、止め金具 1 5 の、装飾体 1 3 にロー付けされた一辺と対向す

50

る他辺近傍に形成され、スペーサ 1 3 の外形にほぼ合致する曲線形状のスペーサ嵌入部 1 5 2 a と、止め金具 1 5 の、他辺と下辺との隅角部近傍からスペーサ嵌入部 1 5 2 a にかけて形成された開口端部 1 5 2 b と、からなり、開口端部 1 5 2 b は、先窄まりの絞り部 1 5 2 x を有し、この絞り部 1 5 2 x の幅は、前述したスペーサ 1 3 の外径よりも小さく設定されている。

【0038】

したがって、装飾体 1 4 を摘み、フック部 1 5 2 の開口端部 1 5 2 b をネックレス 1 0 の所定区間における任意の珠玉 1 1, 1 1 間に挿入すれば、スペーサ 1 3 に係合させることができる。この場合、図 2 に示すように、輪を形成するとともに、係合位置を変更することにより、輪の大きさを自由に調整することができる。また、その状態で抜き出せば、装飾体 1 4 をスペーサ 1 3 から取り外すことができる。

【0039】

このように構成されたネックレス 1 0 を使用する場合は、まず、衣装に合わせて任意の装飾体 1 4 を選択し、選択された装飾体 1 4 を糸 1 2 の一端に止着された受け留め具 1 6 に装着する。具体的には、受け留め具 1 6 を摘むとともに、装飾体 1 4 の止め金具 1 5 を摘んで受け留め具 1 6 に直交させ、受け留め具 1 6 の切り開き部 1 6 a を止め金具 1 5 における掛け留め具部 1 5 1 のチョーク部 1 5 1 b と対向させ、押し込むことにより、止め金具 1 5 における掛け留め具部 1 5 1 の受け留め具嵌入部 1 5 1 a に受け留め具 1 6 の円環体部分を挿入することができる。

【0040】

この場合、止め金具 1 5 の掛け留め具部 1 5 1 と、受け留め具 1 6 とが係止された場合、チョーク部 1 5 1 b は、受け留め具 1 6 を支持している受け留め具嵌入部 1 5 1 a の最下部よりも上方に位置し、また、チョーク部 1 5 1 b の幅は、受け留め具 1 6 の円環体の直径よりも小さいことから、装飾体 1 4 の脱落を確実に防止することができる。すなわち、受け留め具 1 6 の切り開き部 1 6 a と、掛け留め具部 1 5 1 のチョーク部 1 5 1 b が偶然に対向し、両者に引き離し方向の力が作用しない限り、装飾体 1 4 が脱落することはない。

【0041】

次いで、ネックレス 1 0 の両端を持って、ネックレス 1 0 の中程を前方または後方から首にあてがい、形成しようとする輪の大きさを推し量りながら装飾体 1 4 を摘んで、止め金具 1 5 のフック部 1 5 2 をネックレス 1 0 の他端側の所定区間において隣接する真珠 1 1, 1 1 間に挿入し、フック部 1 5 2 を当該隣接する真珠 1 1, 1 1 間に配置されたスペーサ 1 3 に係合させる。すなわち、フック部 1 5 2 の開口端部 1 5 2 b を弾性変形しつつ通過したスペーサ 1 3 は、フック部 1 5 2 のスペーサ嵌入部 1 5 2 a において復元して嵌まり込むことから、両者はしっかりと連結される。

【0042】

この場合、好みに応じて、装飾体 1 4 (輪の連結部分) を胸側、あるいは、図 8 に示すように、背中側に位置させればよい。

【0043】

一方、ネックレス 1 0 を外す場合は、装飾体 1 4 を摘んで、止め金具 1 5 のフック部 1 5 2 を装着時とは逆方向に抜き出すことにより、フック部 1 5 2 のスペーサ嵌入部 1 5 2 a に嵌め込まれていたスペーサ 1 3 が弾性変形しつつ開口端部 1 5 2 b を通過して外れることから、フック部 1 5 2 とスペーサ 1 3 との係合状態を解除することができる。

【0044】

この後、受け留め具 1 6 および装飾体 1 4 を摘んで止め金具 1 5 を受け留め具 1 6 に直交させると同時に、受け留め具 1 6 の切り開き部 1 6 a を止め金具 1 5 における掛け留め具部 1 5 1 のチョーク部 1 5 1 b と対向させて引き出すことにより、止め金具 1 5 における掛け留め具部 1 5 1 の受け留め具嵌入部 1 5 1 a から受け留め具 1 6 を離脱させることができる。

【0045】

10

20

30

40

50

なお、前述した実施形態においては、真珠のネックレス１０を例示したが、他の種類の宝石からなるネックレスにも、また、ネックレス以外にブレスレットにも採用することができる。

【００４６】

この結果、衣装に合わせて任意の装飾体１４を選択し、前述した糸１２の一端に固定された受け留め具１６に止め金具１５の掛け留め具部１５１に係止することにより、選択された装飾体１４を取り付けることができる。また、装飾体１４を装着した状態において、止め金具１５のフック部１５２を所定区間における任意の真珠１１，１１間に挿入するとともに、真珠１１，１１間のスペーサ１３に係合することにより、大きさを調整してネックレス１０の輪を形成することができる。

10

【実施例２】

【００４７】

図９には、本発明の装身具１の第２実施形態であるピアス２０が示されている。

【００４８】

このピアス２０は、真珠２１１を設けたピアスピン２１と、ピアスピン２１に係脱自在なナット２２と、ピアスピン２１に挿通可能なリング２３１およびリング２３１に連結されたチェーン２３２を有する複数の装飾体２３と、から構成されている。

【００４９】

ここで、装飾体２３としては、デザインの異なる複数種類、具体的には、ネックレス１０に用いられる装飾体１４と同様に、花形状（図９参照）の他、ハート形状およびクロス形状（図１０参照）の３種類が用意されている。

20

【００５０】

したがって、このように構成されたピアス２０を使用する場合は、衣装に合わせて任意の装飾体２３を選択し、選択された装飾体２３のリング２３１をピアスピン２１に挿通させた後、耳にピアスピン２１を挿通してナット２２で固定すればよい。

【００５１】

この結果、衣装と調和する任意の装飾体２３を選択して装着することができる。

【００５２】

この場合、ネックレス１０に採用した装飾体１４と同一デザインの装飾体２３を採用することにより、ネックレス１０とピアス２０とを統合して協調することができる。

30

【実施例３】

【００５３】

図１１には、本発明の装身具１の第３実施形態であるイヤリング３０が示されている。

【００５４】

このイヤリング３０は、一端側に真珠３１１を設けたＵ字状の柱（ワイヤ）３１と、柱３１の他端にねじ込まれたスクリュー金具３２と、柱３１に固定された係止フック３３と、係止フック３３に挿通可能なリング３４１およびリング３４１に連結されたチェーン３４２を有する複数の装飾体３４と、から構成され、係止フック３３は、真珠３１１の表面の一部と常時接触するように、弾性変形されている。

【００５５】

40

ここで、装飾体３４としては、デザインの異なる複数種類、具体的には、ネックレス１０に用いられる装飾体１４と同様に、花形状（図１１照）の他、詳細には図示しないが、ハート形状およびクロス形状の３種類が用意されている。

【００５６】

したがって、このように構成されたイヤリング３０を使用する場合は、衣装に合わせて任意の装飾体３４を選択し、選択された装飾体３４のリング３４１に係止フック３３に挿通させた後、耳にスクリュー金具３２を介して装着すればよい。この場合、係止フック３３と真珠３１１との接触部を押し開いて装飾体３４のリング３４１が装着されるため、装飾体３４が簡単に離脱することはない。

【００５７】

50

この結果、衣装と調和する任意の装飾体 34 を選択して装着することができる。

【0058】

この場合、ネックレス 10 に採用した装飾体 14 と同一デザインの装飾体 34 を採用することにより、ネックレス 10 とイヤリング 30 とを統合して協調することができる。

【実施例 4】

【0059】

図 12 には、本発明の装身具 1 のもう一つの他の実施形態である指輪 40 が示されている。

【0060】

この指輪 40 は、リング本体 41 に固定された装飾体 42 から構成され、デザインの異なる複数種類が用意されている。具体的には、リング本体 41 に装飾体 42 として、真珠（図 12（a）参照）、花形状（図 12（b）参照）、ハート形状（図 12（c）参照）およびクロス形状（図 12（d）参照）が固定された 4 種類の指輪 40 が用意されている。

【0061】

したがって、このように構成された指輪 40 を使用する場合は、その日の衣装に合わせて任意の装飾体 42 を備えた指輪 40 を選択し、選択された指輪 40 を指に嵌めればよい。

【0062】

この結果、衣装と調和する任意の装飾体 42 を備えた指輪 40 を選択して装着することができる。

【0063】

この場合、ネックレス 10 に採用した装飾体 14 と同一デザインの装飾体 42 を備えた指輪 40 を採用することにより、ネックレス 10 と指輪 40 とを統合して協調することができる。

【産業上の利用可能性】

【0064】

以上説明したように、この発明は、複数の装飾体のなかから、衣装と調和する装飾体を選択して装着することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【0065】

【図 1】 本発明の装身具の第 1 実施形態であるネックレスを示す正面図である。

【図 2】 ネックレスに対する装飾体の係止状態を示す斜視図である。

【図 3】 図 1 のネックレスにおいて輪を形成した状態を示す正面図である。

【図 4】 図 3 のネックレスにおける輪の連結部分を示す斜視図である。

【図 5】 図 4 の A-A 線矢視図である。

【図 6】 ネックレスの他の装飾体を示す斜視図である。

【図 7】 図 1 のネックレスにおける装飾体および止め金具を示す斜視図である。

【図 8】 ネックレスの装着の一例を示す説明図である。

【図 9】 本発明の装身具の第 2 実施形態であるピアスを示す斜視図である。

【図 10】 ピアスの他の装飾体を示す斜視図である。

【図 11】 本発明の装身具の第 3 実施形態であるイヤリングを示す斜視図である。

【図 12】 本発明の装身具の第 4 実施形態である複数個の指輪を示す斜視図である。

【符号の説明】

【0066】

10 ネックレス（装身具）

11 真珠

12 糸

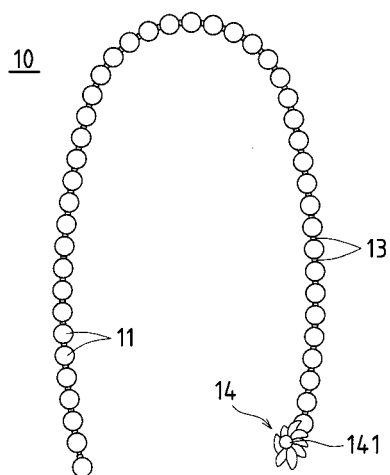
13 スペース

14 装飾体

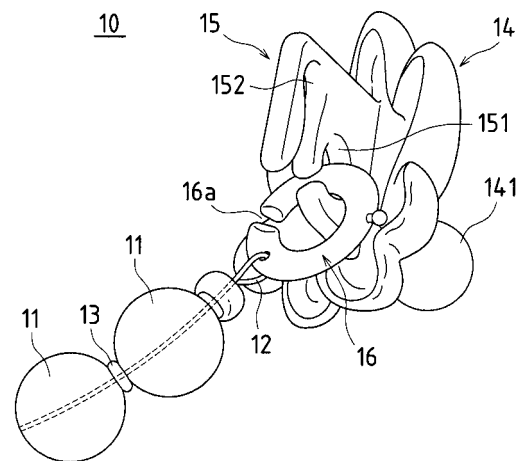
- 1 5 止め金具
- 1 5 1 掛け留め具部
- 1 5 1 a 受け留め具嵌入部
- 1 5 1 b チョーク部
- 1 5 2 フック部
- 1 5 2 a スペーサ嵌入部
- 1 5 2 b 開口端部
- 1 6 受け留め具
- 2 0 ピアス（装身具）
- 2 1 ピアスピンの
- 2 2 ナット
- 2 3 装飾体
- 3 0 イヤリング（装身具）
- 3 1 柱
- 3 2 スクリュー金具
- 3 3 係止フック
- 3 4 装飾体

10

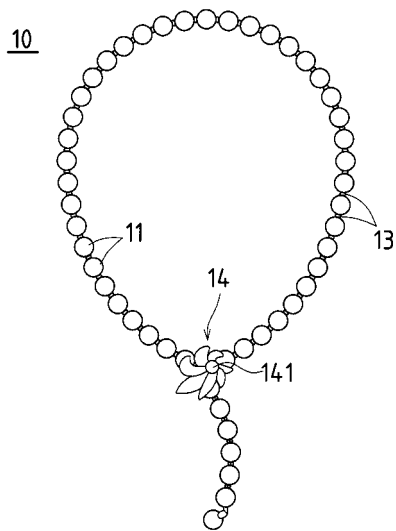
【図 1】



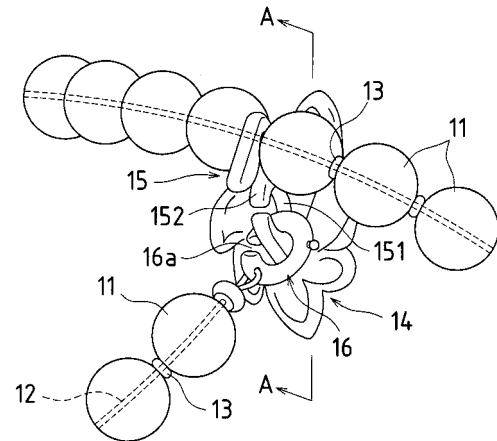
【図 2】



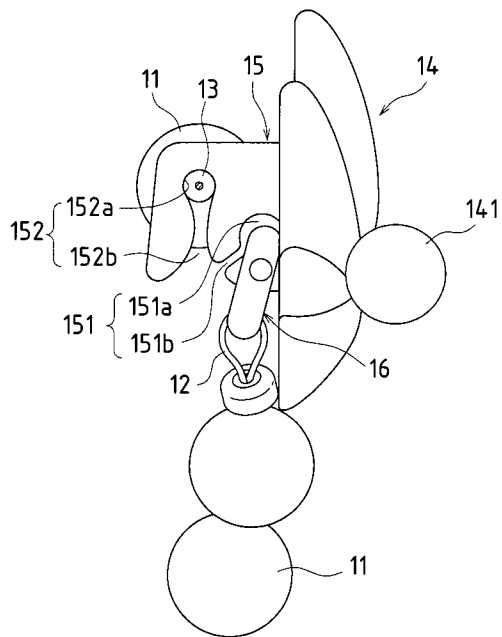
【図 3】



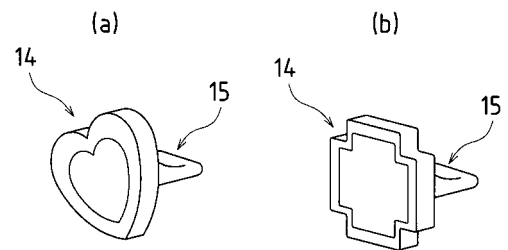
【図 4】



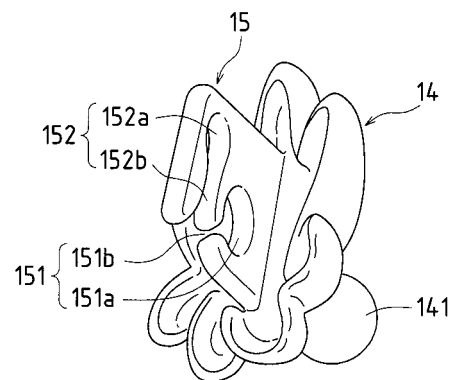
【図 5】



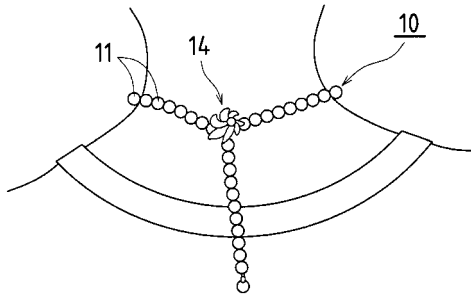
【図 6】



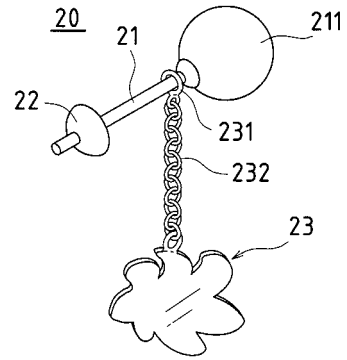
【図 7】



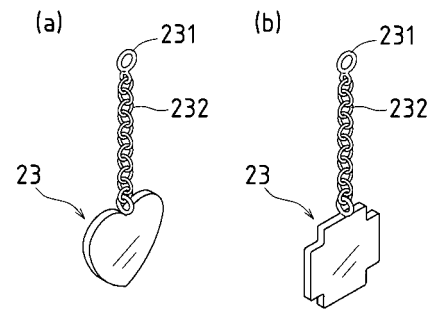
【図 8】



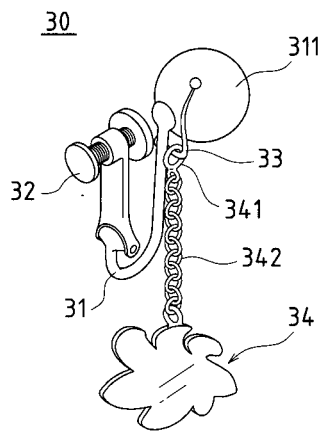
【図 9】



【図 10】



【図 11】



【図 12】

